



○「死海の年縞」の概要

1 概要

- 令和元年4月に現地で年縞博物館学芸員および立命館大学中川教授、北場准教授等が堆積物（年縞）を剥ぎ取り
- 博物館に展示するために、考古造形研究所 代表 森山 哲和 氏による加工、整形、保存処理を施し、標本を制作
- 死海の年縞は、これまでに他博物館等での展示実績はなく、今回が世界初の展示となる。
- 死海は乾燥地に位置するため、乾季には水の蒸発が多く炭酸カルシウムの白い結晶が堆積する。また、雨季には周辺のホコリが堆積するため、1年で明暗の層＝年縞ができる。



2 資料情報

展示箇所	①常設展示「記録 世界の年縞」	②エレベーター裏側（西側）壁面
資料サイズ	W310mm×H1,660mm	W1,275mm×H2,075mm
採取場所	ペラチム溪谷 (北緯31度05分40秒、東経35度21分44秒)	ベイトハアラバ (北緯31度47分46秒、東経35度30分22秒) ※死海文書で有名なクムラン洞窟から北に約5km
年代	約67,000年前から65,000年前	約2万6000年前から2万5000年前
資料写真		
その他	写真展示から実物展示に変更	展示コーナーを新設